

特別講話

1日目 10月20日(木) 14:10～15:10

第1会場 (栃木県総合文化センター 1F メインホール)

赤十字から見た人道の世界地図

日本赤十字社 社長、国際赤十字・赤新月社連盟 会長 近衛 忠輝

座長 小松本 悟 (足利赤十字病院 院長)

特別講話

赤十字から見た人道の世界地図



日本赤十字社 社長、国際赤十字・赤新月社連盟 会長

このえ ただてる
近衛 忠輝

【略歴】

5月8日（世界赤十字デー）生まれ。学習院大学卒業後、ロンドンのLSEに留学。
1964年に日本赤十字社入社。戦後処理、救護、血液、福祉、看護師養成等赤十字事業に携わる。
他、中央防災会議委員等、活動は多岐に亘る。
2009年に世界190ヶ国が集う国際赤十字・赤新月社連盟の会長にアジア人として初めて選出され、
現在2期目。世界各国の紛争地域や、国内外の災害被災地を訪れている。
現在、旧五撰家筆頭の近衛家当主。

将来の進路を決めかねていた私は、大学卒業後、とりあえず世界を広く見てみよう、と、ロンドン大学に属するロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに留学し、国際関係論を2年間学んだ。我が国では所得倍増計画が始まったばかりの頃で、外貨事情は悪く、学生への割当ては殆どなかった。そのため、通訳のバイトをしながらの侘しい下宿生活ではあったが、親しい仲間も楽しい思い出も多々できた。夏休み中にジュネーブを旅した時、たまたま赤十字創設百周年の行事があり、それに参加したのもその一つだった。イギリスからの帰途、冷戦下の共産圏や、紛争最中のキプロスやベトナム、中近東やアジアの途上国、日本に復帰前の沖縄にも立ち寄った。そして様々な厳しい現実に触れ、何か役に立つ国際的な仕事がしたいと考えるようになった時、思い出したのが赤十字との出会いだ。赤十字の掲げて立つ、「人道」「公平」「中立」「独立」「単一」「奉仕」「世界性」の7原則は、私が日本赤十字社に入社した翌年に公式に採択された。その50周年を迎えた昨年、それを記念すると同時に見直す会議がウィーンで開かれたが、これらに勝る「人道」の原則はないことで参加者は一致した。

問題は、人道を取り巻く環境が近年、著しく変化してきたことである。紛争下では、宗教や政治的立場の違いで中立が犯されることがしばしばある。増加する一方の自然災害の原因は複合化しており、すべての被災者に公平であることは容易ではない。更に人道問題は、政治、経済、社会のあらゆる問題との関連で捉えられるようになってきている。

世界では現在、第二次大戦後最大と言われる6千万人以上の難民・避難民が出ており、15億人が紛争下で不安定な生活を強いられている。災害の被災者は、2014年には1億人を超え、国連によれば、援助を必要とする人々の数は、1億3千万人に上るとされている。

世界の人道ニーズが明らかに増加している中で、救援に携わる国際機関やNGOは増えているものの、その活動を支える財源は不十分である上に、獲得に向けての競争も激しくなっている。大災害の現場では、トリアージュによって救援の優先度が決まる。山積する多様な人道問題がある中で、赤十字は何を基準にトリアージュをし、何にどう関わるのか、それが今問われている。